

学校名： 安芸太田町立加計中学校

授業者： 和田 伴

授業日時	令和2年9月16日	教科・科目	技術・家庭科（家庭）
学年・年次	第2学年	児童生徒数	17人
单元名	未来につなぐ持続可能な食生活のためにできることを考えよう	本時／この内容を扱う全時数	8／9
教科書及び教科書会社	東京書籍「新しい技術・家庭 家庭分野」 P91, 92, 244, 245		

<p>授業のねらい（本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか）</p> <p>日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択を考えることを通して、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的・栄養・価格・調理の能率・環境への影響などの諸条件を考えて選択することが大切であることを理解できるようにする（B食生活（3）ア（ア））</li> <li>・自分や家族の消費行動が環境や社会に与える影響を自覚し、自分だけでなく多くの人が行ったり、長期にわたって続けたりすることが大切であることに気付くようにする。（C消費生活・環境（2）ア）</li> </ul>
<p>メインの課題（授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題）</p> <p>未来につなぐ持続可能な食生活のためにできることを考えよう</p>
<p>児童生徒の既有知識・学習の予想（対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの家庭分野の学習では、食生活の内容のうち、中学生に必要な栄養の特徴や健康によい食習慣、栄養素や食品の栄養的な特質、食品の種類と概量、献立作成を学習している。</li> <li>・今回の授業についての既有知識はアンケートによると「食料自給率」「食品ロス」「地産地消」などの語句は知っているものの内容の理解は不十分である。「フードマイレージ」「エシカル消費」「SDGs」などについては語句も知らない生徒がほとんどである。</li> </ul>
<p>期待する解答の要素（本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準）</p> <p>食品を選択するとき、賞味期限、価格、見た目だけでなく、環境の視点（持続可能な食生活のために）をもって選択・購入するという意欲を持てるようになる。</p> <p>「地産地消」「環境」「社会」「食品ロス」「ごみを減らす」「日本は～」「未来のために」「考えてから～する」など</p>

各エキスパート<対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください>
<p>エキスパート A「私たちの住んでいる地球環境とエネルギーの関係について、日本の実態や課題を資料を見て考えよう」          家庭からの二酸化炭素排出量、ごみの排出量の推移、主要国の一次エネルギー自給率比較のグラフから考える。</p> <p>エキスパート B「世界の国々と日本の食生活を比較し、日本の実態や課題を資料を見て考えよう」          我が国と諸外国の食料自給率、日本の食品別自給率、フードマイレージの資料から考える。</p> <p>エキスパート C「食品ロスの現状と世界の飢餓（きが）について、日本の実態や課題を資料を見て考えよう」          日本の食品ロスの状況、世界の食糧援助、世界の飢餓人口などの資料から考える。</p>
シグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容
<p>自分自身の食生活を振り返って考える。          食生活を取り巻く課題について考える。</p>

#### 本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
これまで	献立作りと商品の選択	・食品に含まれる栄養素・食品群別摂取量の目安・1日分の献立作成・生鮮食品と加工食品 などについて理解する。
前時	食品の選択と購入について考える	・用途に応じて食品を適切に選択することができる。 ・食品表示の意味について理解する。
本時	日常生活と関連付けた食品の選択	・用途に応じた食品の選択について、目的、栄養、価格、調理の能率のほか環境への影響も考えることが大切であることを理解する。
次時	食品の安全について	・食品の安全性に関する問題などに関心をもつ。
この後	よりよい食生活を目指して	・食生活を取り巻く課題について考えることができる。

#### 上記の一連の学習で目指すゴール

これからの自分の生活を展望して、食生活の課題を解決する力を養い、食生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5分	<p>①導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたが、食品を選択・購入するとき大事にしたいこと。</li> <li>・本時の学習課題を提示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題：未来につなぐ持続可能な食生活のために私たちにできることは何だろう！</p> </div>	<p>○前時までの確認</p>
10分	<p>②エキスパート活動</p> <p>A：「私たちの住んでいる地球環境をエネルギーの関係」</p> <p>B：「世界の国々と日本の食生活を比較してみよう」</p> <p>C：「日本の食品ロスの現状と世界の飢餓（きが）」</p>	<p>○エキスパートそれぞれの実態と課題を押し入れられるようにする。</p>
15分	<p>③ジグソー活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未来につなぐ持続可能な食生活のために私たちにできることは何だろう！</li> </ul>	<p>○エキスパート活動で考えた実態と課題を共有してから「できること」を考えるようにする。</p> <p>○理由が具体的に説明できるよう促す。</p>
10分	<p>④クロストーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで話し合ったことを発表する。</li> </ul>	
10分	<p>⑤まとめ・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クロストークでの発表をもとに、「持続可能な食生活を営むために、<b>今、自分ができる工夫は何だろう。</b>」を考え発表。</li> <li>・今日学習したことをもとに、食品を選択・購入するとき、大事にしたいことを帯グラフにまとめる。</li> </ul>	<p>○本時の課題を再確認し、自分の考えが述べられるようにする。</p>

グループの人数や組み方	
エキスパート活動	<p>A：3人×2グループ</p> <p>B：3人×2グループ</p> <p>C：3人×1グループ，2人×1グループ</p>
ジグソー班	3人×3グループ，4人×2グループ